

## 4 販売農家

### (1) 主副業別農家数

～主業農家及び副業的農家の割合が増加～

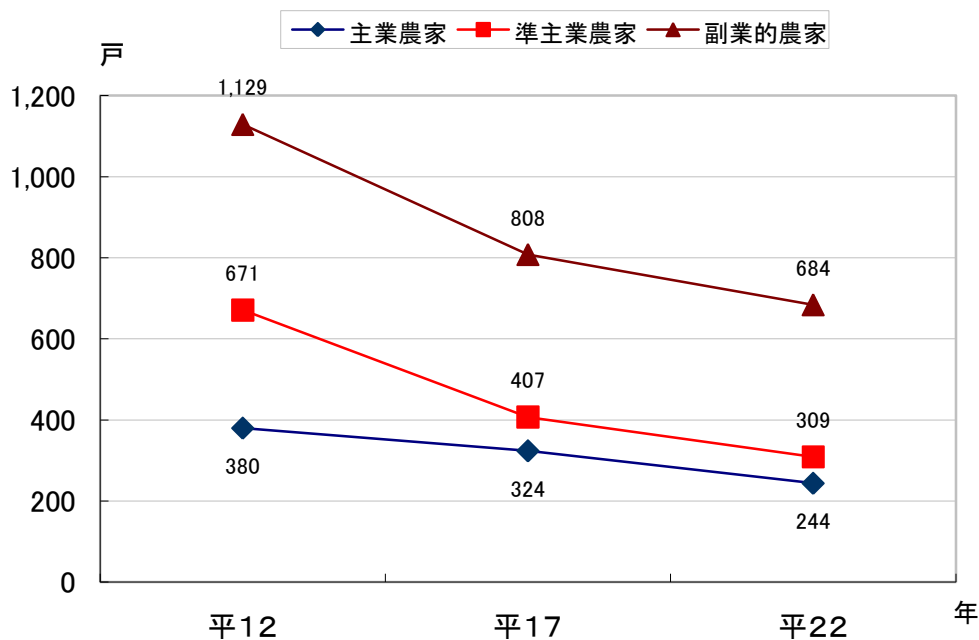
販売農家を主副業別にみると、主業農家は244戸（全体に占める割合19.7%）で前回に比べ80戸、準主業農家は309戸（同25.0%）で前回に比べ98戸、副業的農家は684戸（同55.3%）で前回に比べ124戸、それぞれ減少した。

表8 主副業別販売農家数の推移

単位：戸

区分	販売農家	主業農家		準主業農家		副業的農家
			65歳未満の農業専従者がいる		65歳未満の農業専従者がいる	
平成22年	1,237	244	189	309	75	684
平成17年	1,539	324	245	407	86	808
増減率(%) (平成22/17)	△ 19.6	△ 24.7	△ 22.9	△ 24.1	△ 12.8	△ 15.3
構成比(%)						
平成22年	100.0	19.7	15.3	25.0	6.1	55.3
平成17年	100.0	21.1	15.9	26.4	5.6	52.5

図5 主副業別販売農家数の推移



## (2) 専兼業別農家数

販売農家を専兼業別にみると、専業農家は358戸（全体に占める割合28.9%）で前回に比べ20戸増加した。兼業農家は879戸（同71.1%）で前回に比べ322戸減少した。内訳をみると第1種兼業農家は161戸（同13.0%）で前回に比べ97戸、第2種兼業農家は718戸（同58.0%）で前回に比べ225戸、それぞれ減少した。

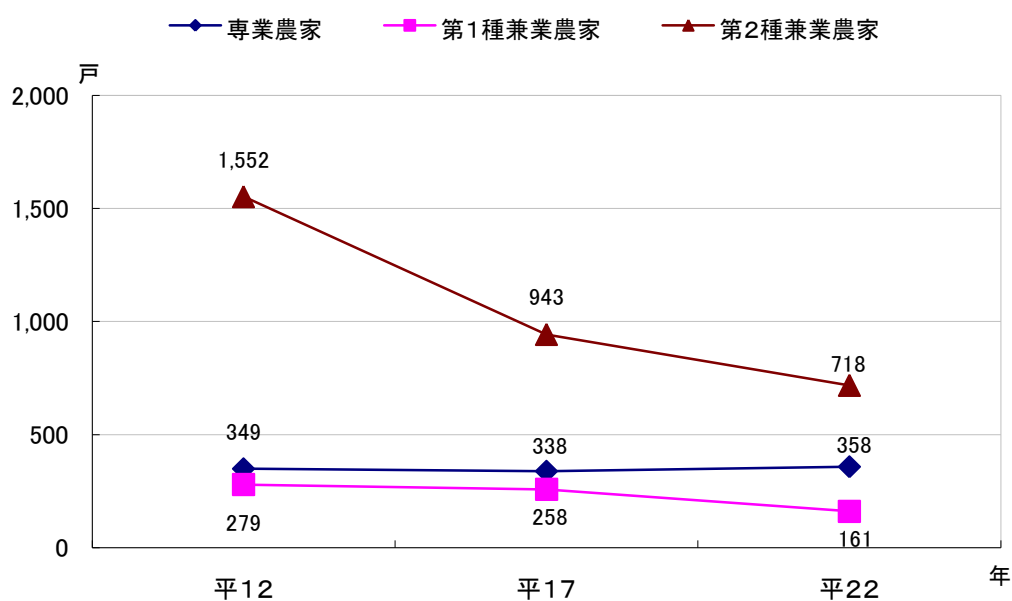
表9 専兼業別販売農家数の推移

単位：戸

区分	販売農家	専業農家	生産年齢人口		兼業農家		
			男子生産年齢人口がいる	女子生産年齢人口がいる	小計	第1種兼業農家	第2種兼業農家
平成22年	1,237	358	127	115	879	161	718
平成17年	1,539	338	121	122	1,201	258	943
増減率(%) (平成22/17)	△ 19.6	5.9	5.0	△ 5.7	△ 26.8	△ 37.6	△ 23.9
構成比(%)							
平成22年	100.0	28.9	10.3	9.3	71.1	13.0	58.0
平成17年	100.0	22.0	7.9	7.9	78.0	16.8	61.3

※「生産年齢人口」…15歳以上65歳未満の人口

図6 販売農家数と専兼業別販売農家数構成割合の推移



### (3) 農家世帯員数、就業状態（農業従事者、農業就業人口、基幹的農業従事者）

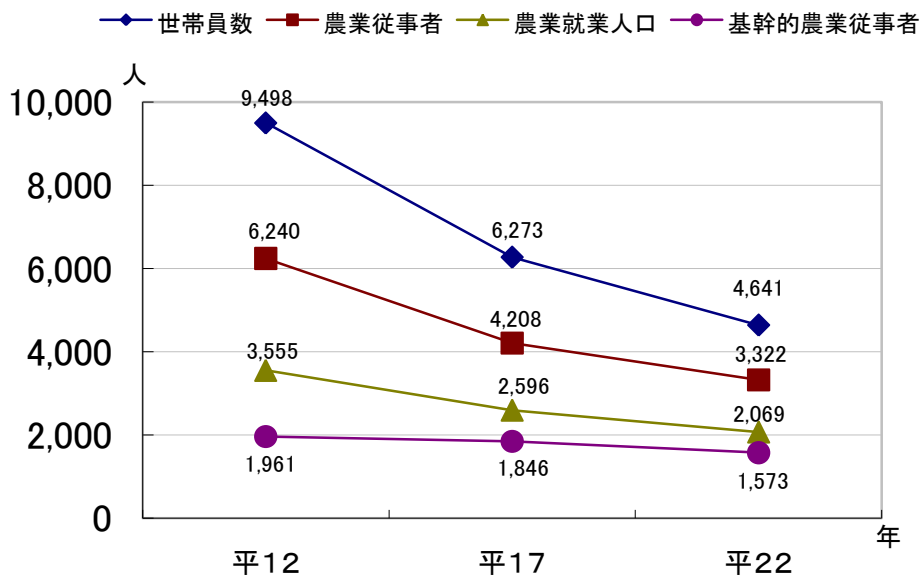
#### ～農家世帯員数、農業従事者、農業就業人口の減少～

販売農家の世帯員数は4,641人で前回に比べ1,632人減少した。このうち、15歳以上の世帯員で調査期日前1年間に農業に従事した世帯員（農業従事者）は3,322人で前回に比べ886人、農業を主として従事した世帯員（農業就業人口）は2,069人で前回に比べ527人、農業就業人口のうち仕事が主の世帯員（基幹的農業従事者）は1,573人で前回に比べ273人、それぞれ減少した。

表10 農家世帯員数、農業従事者、農業就業人口、基幹的農業従事者の推移  
単位：人

区 分		農家世帯員数	農業従事者		
			農業就業人口	基幹的農業従事者	
実 数	男女計				
	平成22年	4,641	3,322	2,069	1,573
	平成17年	6,273	4,208	2,596	1,846
	男				
	平成22年	2,312	1,806	976	897
	平成17年	3,112	2,267	1,185	1,040
女					
平成22年	2,329	1,516	1,093	676	
平成17年	3,161	1,941	1,411	806	
増減率(%) (平成22/17)	男女計	△ 26.0	△ 21.1	△ 20.3	△ 14.8
	男	△ 25.7	△ 20.3	△ 17.6	△ 13.8
	女	△ 26.3	△ 21.9	△ 22.5	△ 16.1

図7 農家世帯員数、農業従事者、農業就業人口、基幹的農業従事者の推移



#### (4) 農業生産

##### ア 販売目的で作付した類別作付け農家数

～販売目的で作付した農家は販売農家の84.8%～

販売農家のうち販売目的で作付けした農家は、1,049戸で前回に比べ274戸減少した。このうち、稲を作付けした農家は983戸で前回に比べ274戸、麦類を作付けした農家は226戸で前回に比べ174戸、いも類を作付けした農家は96戸で前回に比べ140戸、豆類を作付けした農家は43戸で前回に比べ52戸、野菜類を作付けした農家は343戸で前回に比べ137戸それぞれ減少した。

表11 主な販売目的で作付した類別作付け農家数の推移

単位：戸

区分	販売目的で作付した実農家数	稲	麦類	いも類	豆類	野菜類
平成22年	1,049	983	226	96	43	343
平成17年	1,323	1,257	400	236	95	480
増減率(%) (平成22/17)	△ 20.7	△ 21.8	△ 43.5	△ 59.3	△ 54.7	△ 28.5
構成比(%)						
平成22年	100.0	93.7	21.5	9.2	4.1	32.7
平成17年	100.0	95.0	30.2	17.8	7.2	36.3

※販売目的で作付けした実農家数は、類別作付け農家数でそれぞれ複数該当する販売農家があるため、内訳の計と一致しない。

##### イ 家畜を販売目的で飼養している農家数

～乳用牛、肉用牛で1戸あたりの飼養頭数が増加～

販売農家のうち家畜を販売目的で飼養している農家で、乳用牛は12戸で前回に比べ3戸、肉用牛は17戸で前回に比べ4戸、それぞれ減少した。

表12 家畜を販売目的で飼養している農家数の推移

単位：戸、頭、100羽

区分	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	ブロイラー
平成22年	12	17	4	1	1
平成17年	15	21	4	6	2
増減率(%) (平成22/17)	△ 20.0	△ 19.0	0.0	△ 83.3	△ 50.0
1戸あたりの飼養頭数					
平成22年	46.0	50.1	347.3	X	X
平成17年	45.3	54.7	461.5	8.1	X

## (5) 農作業を委託した農家数

～農作業を委託した農家数の減少～

販売農家の農作業を委託した農家数をみると、全作業を委託した農家が27戸で前回に比べ9戸、部分作業を委託した農家が324戸で前回に比べ100戸、それぞれ減少した。

表13 農作業を委託した農家数の推移

単位：戸

区分	水稲作 全作業	水稲作 部分作業	(種 類 別)					
			育苗	耕起・代かき	田植	防除	稲刈り・脱穀	乾燥・調整
平成22年	27	324	66	47	66	68	169	272
平成17年	36	424	76	51	87	104	231	374
増減率(%) (平成22/17)	△ 25.0	△ 23.6	△ 13.2	△ 7.8	△ 24.1	△ 34.6	△ 26.8	△ 27.3

## (6) 農作業を受託した農家数

～全作業は減少、部分作業は増加～

販売農家の農作業を受託した農家数をみると、全作業を受託した農家が8戸で前回に比べ17戸減少したが、部分作業を受託した農家が81戸で前回に比べ17戸増加した。

表14 農作業を受託した農家数の推移

単位：戸

区分	水稲作 全作業	水稲作 部分作業	(種 類 別)					
			育苗	耕起・代かき	田植	防除	稲刈り・脱穀	乾燥・調整
平成22年	8	81	14	42	42	8	64	59
平成17年	25	64	16	38	39	5	47	41
増減率(%) (平成22/17)	△ 68.0	26.6	△ 12.5	10.5	7.7	60.0	36.2	43.9

## (7) 耕地種類別経営耕地面積

～販売農家の1戸あたりの経営耕地面積が増加～

販売農家の経営耕地面積は167,256aで前回に比べ9,745a減少した。これを、耕地種類別にみると、田が149,405aで前回に比べ9,101a、畑が16,751aで前回に比べ341a、樹園地が1,100aで前回に比べ303a、それぞれ減少した。

表15 耕地種類別経営耕地面積の推移

単位：戸、a

区分	販売農家数	経営耕地 面積 計	1戸当りの 経営耕地 面積	田		畑		樹園地	
				農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
平成22年	1,237	167,256	135.2	1,222	149,405	828	16,751	58	1,100
平成17年	1,539	177,001	115.0	1,523	158,506	1,016	17,092	91	1,403
増減率(%) (平成22/17)	△ 19.6	△ 5.5	17.6	△ 19.8	△ 5.7	△ 18.5	△ 2.0	△ 36.3	△ 21.6
構成比(%)									
平成22年	…	100.0	…	…	89.3	…	10.0	…	0.7
平成17年	…	100.0	…	…	89.6	…	9.7	…	0.8

## (8) 借入・貸付耕地面積

### ア 借入耕地面積

～借入耕地面積は15.8%増加～

販売農家の借入耕地面積は、57,280aで前回に比べ7,796a増加した。このうち、田は53,577aで前回に比べ6,734a、畑は3,673aで前回に比べ1,111a、それぞれ増加した。一方、樹園地は30aで前回に比べ49a減少した。

表16 借入耕地面積の推移

単位：a

区分	借入耕地面積計	田	畑	樹園地
平成22年	57,280	53,577	3,673	30
平成17年	49,484	46,843	2,562	79
増減率(%) (平成22/17)	15.8	14.4	43.4	△ 62.0
構成比(%)				
平成22年	100.0	93.5	6.4	0.1
平成17年	100.0	94.7	5.2	0.2

### イ 貸付耕地面積

～貸付耕地面積は1.8%減少～

販売農家の貸付耕地面積は、6,991aで前回に比べ125a減少した。このうち、田は6,328aで前回に比べ225a増加し、畑は663aで前回に比べ350a減少した。

表17 貸付耕地面積の推移

単位：a

区分	貸付耕地面積計	田	畑	樹園地
平成22年	6,991	6,328	663	-
平成17年	7,116	6,103	1,013	-
増減率(%) (平成22/17)	△ 1.8	3.7	△ 34.6	-
構成比(%)				
平成22年	100.0	90.5	9.5	-
平成17年	100.0	85.8	14.2	-

### (9) 作物の類別作付農家数、作付面積

販売農家のうち販売目的で作付けした作物の農家数でもっとも多いのは「水稻」の983戸で、次いで「大麦・裸麦」が179戸となった。

作付面積をみると「水稻」の96,975aで、次いで「大麦・裸麦」が37,998aとなった。

表18 主な販売目的で作付した作物の農家数及び面積の推移

単位：戸、a

区分	計		水稻		小麦		大麦・裸麦	
	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
平成22年	1,258	167,256	983	96,975	74	16,513	179	37,998
平成17年	1,539	177,001	1,257	106,653	225	26,386	226	39,930
増減率(%) (平成22/17)	△ 18.3	△ 5.5	△ 21.8	△ 9.1	△ 67.1	△ 37.4	△ 20.8	△ 4.8

区分	ばれいしょ		大豆		他の豆類	
	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
平成22年	95	279	28	589	31	151
平成17年	234	586	74	881	38	103
増減率(%) (平成22/17)	△ 59.4	△ 52.4	△ 62.2	△ 33.1	△ 18.4	46.6

### (10) 野菜の栽培農家数

販売農家のうち販売目的で栽培した野菜の農家数でもっとも多いのは「トマト」の95戸で、次いで「いちご」が90戸となった。

表19 主な販売目的で作付した野菜の農家数の推移

単位：戸

区分	トマト	なす	きゅうり	キャベツ	はくさい	ほうれんそう
平成22年	95	68	67	36	47	69
平成17年	133	160	152	96	111	140
増減率(%) (平成22/17)	△ 28.6	△ 57.5	△ 55.9	△ 62.5	△ 57.7	△ 50.7

区分	ねぎ	たまねぎ	だいこん	にんじん	さといも	いちご
平成22年	64	56	77	45	62	90
平成17年	161	113	180	81	152	120
増減率(%) (平成22/17)	△ 60.2	△ 50.4	△ 57.2	△ 44.4	△ 59.2	△ 25.0

※「はくさい」の平成17年は「結球はくさい」としての数値



### (11) 果樹の栽培農家数

販売農家のうち販売目的で栽培した果樹の農家数がもっとも多いのは「ぶどう」の10戸で、次いで「くり」が9戸となった。

表20 主な販売目的で栽培した果樹の農家数の推移

単位：戸、a

区分	ぶどう	かんきつ類	かき	くり	うめ
平成22年	10	8	2	9	8
平成17年	21	6	5	13	12
増減率(%) (平成22/17)	△ 52.4	33.3	△ 60.0	△ 30.8	△ 33.3

### (12) ハウス・ガラス室を使用した農家数及び総面積

販売農家のうちハウス・ガラス室を使用した農家数は207戸で前回に比べ38戸減少した。

一方、販売農家のうちハウス・ガラス室がある農家の割合は16.7%で前回に比べて0.8ポイント上昇した。

表21 ハウス・ガラス室を使用した経営体数及び総面積の推移

単位：戸、a

区分	販売農家数	ハウス・ガラス室を使用した農家数	ハウス・ガラス室の総面積	ハウス・ガラス室を使用した農家数の割合(%)
平成22年	1,237	207	4,721	16.7
平成17年	1,539	245	5,225	15.9
増減率(%) (平成22/17)	△ 19.6	△ 15.5	△ 9.6	5.0

### (13) 農業用機械

販売農家が所有する農業用機械の台数は、乗用型トラクターが1,455台で前回に比べ260台、動力田植機が1,020台で前回に比べ149台、コンバインが867台で前回に比べ136台、それぞれ減少した。

表22 農業用機械の保有台数の推移

単位：戸、台

区分	トラクター		動力田植機		コンバイン	
	農家数	台数	農家数	台数	農家数	台数
平成22年	1,128	1,455	1,009	1,020	858	867
平成17年	1,391	1,715	1,159	1,169	991	1,003
増減率(%) (平成22/17)	...	...	△ 12.9	△ 12.7	△ 13.4	△ 13.6

※平成17年の「トラクター」は乗用型のみの数値で、歩行型は含まれていない

### (14) 環境保全型農業への取組み

販売農家のうち環境保全型農業に取り組んでいる農家数は457戸で、前回に比べて169戸減少した。

表23 環境保全型農業に取り組んでいる農家数の推移

単位：戸

区分	販売農家数	環境保全型農業に取り組んでいない	環境保全型農業に取り組んでいる	環境保全型農業に取り組んでいる		
				化学肥料の低減の取組み	農薬の低減の取組み	堆肥による土作りをしている
平成22年	1,237	780	457	295	370	224
平成17年	1,539	913	626	362	491	374
増減率(%) (平成22/17)	△ 19.6	△ 14.6	△ 27.0	△ 18.5	△ 24.6	△ 40.1